

青少年相談員会報

令和3年3月15日発行

第92号

さ き が け

発行 水戸市青少年相談員連絡協議会 (事務局 水戸市教育委員会事務局教育部生涯学習課 ☎029-306-8692)



水戸城二の丸角櫓

地域とともにある学校づくり

水戸市総合教育研究所

所長 春原孝政



新型コロナウイルス感染症に社会全体が翻弄された一年となり、今なお予断を許さない状況が続いています。コロナ禍の状況において、各学校では、

P T Aや地域の方々の協力を得ながら、さまざまな感染防止対策や、子どもたちの学びを保障するために知恵を出し合い、今できる精一杯の対応を続けています。

これからの社会は、人口知能 (AI) 等の先端技術が高度化して、社会が加速度的に変化し、将来を予測することが困難であるとされています。新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、私たち一人ひとりが、答えのない問いにどう立ち向かうのかを問われていると感じています。

インターネットの急速な進展によりSNSの利用に起因するトラブルや、ネット依存など子どもたちを巡る様々な問題が懸念される中、子どもたちの不安や悩みに寄り添い見守ってくれる家族や、相談できる友人や大人、つながることができる地域の存在はこれまで以上に重要になってくるものと考えています。

本市では、「地域とともにある学校づくり」を目指して、学校運営協議会制度 (コミュニティ・スクール) を全校で導入しています。学校と家庭、地域が協働し、地域との絆を深め、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めることで、子どもたちの健やかな成長を支援していきたいと考えています。

結びに、水戸市青少年相談員の皆様には、青少年健全育成に向けた取組を通して、子どもたちを温かく見守り、声かけをしていただいておりますことに心より感謝申し上げます。

会長 立川 力

コロナ禍の大寒のころ、会報さきがけ原稿依頼（退職者から 活動を顧みて）が丑年の私に届きました。今年の松の内に内原地区育成会みらい原稿（活動始めの挨拶）提出、「水戸市成人の日式典延期」の知らせの間も無くに茨城県青少年相談員連絡協議会50周年記念紙原稿（活動によせて）を提出しました。一ヶ月の間に「活動はじめ」から「活動中」そして「退職に寄せて」を書くことになりました。不思議な感覚に覆われました。

改めて相連協活動を顧みると沢山の方にお世話になったことを強く思いました。水戸市教育委員会（特に水戸市青少年相談員連絡協議会事務局担当者）には特段のご協力をいただいたことに深い感謝を申し上げます。水戸市青少年相談員連絡協議会の会員各位には経験が浅い若輩の私にご指導ご鞭撻さらに諸活動を支えていただいたことに感謝を申し上げますとともに、

補導活動など不断の献身的で勇氣ある活動には改めて敬意を表するものです。重ねてお礼を申し上げます。

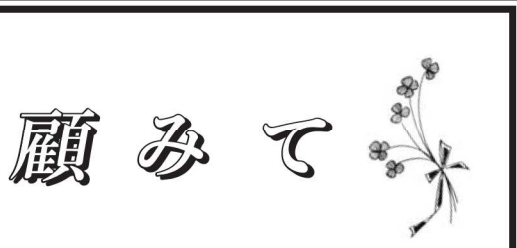
相連協活動が長くなるにつれて活動には「共育」がキーワードか

など考えるようになりました。青少年問題に関わって四半世紀以上が経ちました。乳幼児問題を加えると40年くらいになります。でも、「変わらぬものは子どもの心」変わってきているのは「大人の子どもに対する要求」のような気がします。青少年の多くはそのことに気づいています。そして、今でも必死で頭を使って要求に応えようとしているし、その実現の難しさにもがいているような様子です。その中で青少年と相談員というとても考えさせられる実践活動に携わって強く思うことは、即時対応性や多様性への対応の難しさです。一つの言葉かけの影響力・重要性などでも頭がぐるぐる回るだけさっぱり進歩していない自分があることに気付かされます。青少年と共に育つ「共育」の心でずっといきたいものです。

視察研修部長

片岡 清義

地区の青少年育成会の代表として、相談員活動を始めて20年の月日が流れました。最初は、先輩相談員の後について行く



て む り

だけでした。やがて、研修会、講演会などを通じて、心構えができた様に思います。また、研修旅行では施設等の見学、交流を通じ、夜の仲間との交流は、より親交を深めることができました。残念ながら、昨年はコロナ禍で総会、研修旅行も開けず、相談員同士の交流もままならず、残念であります。相談員活動を続ける中で、貴重な経験をさせて頂き、自分の成長にもつながったと思います。皆様の、今後の青少年健全育成活動を願っています。卒業しても、子どもたちを見守る事は行っていききたいと思えます。お世話になり、有難う御座いました。相談員の皆様の活動を応援しています。

幹事 尾崎 盾

記憶に残る一つとして総合研修で実施された模擬補導実習訓練です。それまでは子どもたちに上から目線で接していましたが、考え方が変わりました。実際に街頭補導に出ても訓練を活かす場面は多くなく、帰宅を促す声掛けや挨拶程度で、問

題がありそうな子どもたちには出会う機会はありませんでした。ただ一度、トイレの片隅で喫煙者を発見し近づくも感づかれ先に逃げられました。

最近では特に子どもたちの姿さえ見ることが少なくなり、どこに行ってしまったのかと考えさせられます。子どもたち同士が屋外で遊ぶ風景がなくなり、思いやりや慈しみ悲しみ深くなる心が育成されていくのか心配しています。相談員活動にも考えさせられる現状です。活動中、多くの方々に支えられ、小生の糧になりえたことに感謝し、退任の挨拶とします。

三中地区 木村多美子

青少年相談員になったばかりの頃、主な仕事は今はなくなりませんが、電話ボックス内の違法広告物を撤去する事でした。補導の時などは、喫煙している未成年者に対してどのように声をかけたら良いのか先輩の後ろでドキドキしながら見ていました。研修会で薬物の恐ろしさも教えて頂きました。今は見える事例より見えない事例が多いと思います。また一泊の県外の視察研修で少年鑑別所、自立更生促進センター、児童養護施

設を訪問し、責任者の方の心温まるお話に感動し視野が広がりました。そして相談員の方々と出会えいろいろと学ばせて頂いた事に感謝しています。

これからも皆様のご活躍を応援しております。ありがとうございます。

一中地区 柏 清隆

主任児童委員として前任者から青少年相談員を引き継ぎ、街頭補導に参加してきました。仕事の都合で地区補導に参加できないため、中央地区の夜間補導には極力参加するようにしました。

夜間の補導のため声掛けの対象は主に高校生で、帰宅を促すものが大半でしたが、素直に応じてくれていました。最近、高校生たちの行動が変わってきたように感じます。数年前はよく目にした喫煙の場面がほとんどなくなり、声掛けへの対応は女子生徒のほうが積極的で、今日の時流を表しているように思えます。

街頭補導は地道な活動ですが、私たちが見守っているということが、彼ら彼女らに多少なりとも伝わってくれていたら幸いです。

一中地区

三田寺 正志

私が最初に青少年育成活動に係わったのは地区の子ども会、約30年前のことでした。その後中学校PTA会長、続いて地区青少年育成会会長を務め、現在は青少年社会参加部長の職についています。

水戸市青少年相談員連絡協議会については、私が地区青少年育成会会長を務めていたころ要請があり、お受けいたしました。本連絡協議会の主たる活動は街頭補導と、その時々で社会問題になってくる事案に関する研修会でありました。

研修会につきましては自分なりに参加したと思っておりますが、街頭補導につきましては大いに心残りのする結果でありました。時間帯が基本平日の昼間であり、多分にそれを自分に対する言い訳にしていたと思います。

なお、地元ではいまでも自治実践会副会長と部長職を兼務して活動を継続しているので、今後何かの機会にお会いすることがあれば引き続きよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

—退任者から—

## 活動を

一中地区

小瀧みさ子

コロナ禍の中、青少年相談員の任期2年が終了します。民生委員・児童委員の立場から参加致しました。高齢者の見守り相談活動の中、高齢者と小学生との交流など、地域活動をしております。

この2年青少年相談員として中高生に声かけ見守りなど青少年相談員の活動の大切さを学びました。「僕らを」「私たちを」見守っている大人たちがいるのだと認識してもらえ、温かな目で活動をしていくことの継続、先輩青少年相談員たちが、たえまなく活動されてきたことに絆を感じます。また水戸市の青少年たちが水戸駅周辺を安心・安全に行動できる環境を作っていく事が青少年相談員の活動だと思っています。

コロナ禍の中、活動が中止となる事もありましたが、事務局の方々、同僚青少年相談員のご努力にて事故なく、活動を終了できまことに御礼申し上げます。後輩青少年相談員のご活躍をお祈り申し上げます。

二中地区 砂押 信子

金曜日午後3時、水戸駅北口芝生広場前の歩道に元気な声、小学校低学年生たちが大きな荷物を持ち下校するところです。ゆるやかな坂道を走る子、おしゃべりしながら歩いている子いつも変わらない風景です。

翌土曜日午後1時、10代後半の男子たち、それぞれにスケートボードを持ち歩道で滑りはじめる。芝生のなかへジャンピング。見かねて私の主人が彼らに声をかけるとラインで集まった筑西市、笠間市、牛久市、水戸市内からのグループとの事でした。

先輩相談員に導かれながら、無事2年間青少年相談員を務めることができました。街頭補導中での注意点や商業施設での声かけのタイミング等、いろいろと教えていただき、相談員の方々が水戸市内各地区で街頭補導を通じて日夜、青少年を見守っていることも知りました。

これからは「青少年の健全育成に協力する店」として、水戸駅北口周辺を見つめていきたいと思っております。2年間一緒に歩いていた皆様、ありがとうございます。

# 令和2年度青少年相談員実務研修会 R2・12・5

## 子どもを取り巻くインターネットの問題

「命と未来を守るためにできること」

企画運営部長 大森 ますみ

インターネットの問題は皆さん何度となく受講されていると思いますが、今回講話いただいた茨城県メディア教育指導員の川野邊洋美先生は、そこから更に掘り下げての問題を私たち大人に課題として提示してくれました。

現実から目を背けるように、顔の見えない相手とのネットの中だけで繋がって、それでも根も葉もない中傷やいじめで個人情報やさらされたり。家庭には居場所がなく、同じような仲間？とたむろする。相談員や大人が「早く帰りなさい」なんて声をかけても家には親がいないか、いても食べる物がなにか

暴力を受けるか。

大人としてできる事があるのなら、目を見て会話をして気づけて、「よく話をしてくれたね」と次に繋げること。『自分の命は自分で守る』判断力・自制力・責任力を身に付ける人間フィリタリングを子どもたちが学べる居場所を作ることができたらしいのに、と思います。

あらためて、目を見て声をかけてみようと思います。



## コロナ禍、大会も研修会もオンラインで

### 第50回茨城県青少年相談員研修大会及び記念大会式典

今年度の大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出席者を限定して開催。大会・式典および講演の様子は、動画にて配信されました。

#### 1 研修大会及び記念大会表彰式典

令和2年10月30日、茨城県庁9階講堂において、75名の相談員が

表彰されました。

#### 2 講演

(株)ミヤノモリ・ラボラトリー代表取締役高橋大洋先生を講師に、「青少年のインターネット利用」

いま知っておきたいこと・知らせたいこと」という演題で、「保護者にとって、ネット利用は新し

い子育て課題と言え、自分のスマホにアプリを入れるなど、自分で手を動かして試す姿勢が大切。」と話されました。

#### 3 里親制度説明

県内では里親が大変不足しており、「里親等委託の推進に向けた取組」について説明がありました。

### 茨城県青少年相談員連絡協議会

#### 第3ブロック研修会

R3・2・14

笠間市笠間公民館で開催予定だった第3ブロック研修会は、各市町村ごと集まり、Zoomでの開催となりました。

講演「子どもたちを地域で育てるということ」

小沼公道先生（茨城県水戸生涯学習センター所長）の時間：青少年相談員の一人ひとりが、社会教育の最先端者で、子どもの教育には、学校・家庭・地域社会の連携が不可欠である。

安部顕先生（第一種少年院水府学院法務教官）の時間：人と生身で向き合わない時代に、地域や社会といった子どもを支える筋交いのようなナナメの関係が大切である。

2人によるマトメの時間：子どもたちを育てるには、学校だけ、

少年院だけではダメで、第三者の存在が大事。未来を担う子どもたちの育成のために、いろいろな団体と連携して学校や少年院に入っ てほしい。と、青少年相談員の挑戦に期待されています。（小塚）



### 編集後記

マスク、マスク。どこでもマスク姿が当たり前になり、毎日顔を合わせている人なのに素顔が分からない、という冗談のような現実が続いている。そんな中、子どもたちは流行りのキャラクター柄のマスクをしたり、大人たちも洋服とのコーディネート工夫したりと少しでもプラス思考でこのコロナ禍を乗り切ろうとしている。

平穩無事の日常がどれほどありがたかったか、そして人と人の絆、ふれあいの大切さが身に染みた一年だったのでないだろうか。

さあ、もうひと頑張りです。きつと笑って手を取り合える日を信じて。（池田）